

Meet the Musicians

楽団員紹介

フランスの香りを纏う麗しの音色

吉野 亜希菜

Akina Yoshino

[首席クラリネット奏者]2012年9月入団

趣味: そば打ち。出汁にもこだわっています。



日本の大学ではなく、世界に

中学入学時の部活見学で勧誘されて始めたクラリネット。それまでピアノを弾いていたのですが、“息で音をコントロールする”感覚が新鮮で、吹いているうちにどんどん好きになりました。中学を卒業する頃から、当時指導をしていただいたいでいた本田耕一先生が「東京の大学に行かなくても、留学するのもいいのでは?」と留学を勧めてくださるようになり、漠然と「高校を卒業したら留学をするのかも」と思っていました。後に聞いた話ですが、この頃から本田先生は、両親に海外留学をするよう説得をしてくれていたそうです。

異国の地で支えられ

高校卒業後、単身パリに留学。4年目頃から財政面が厳しくなり、日本食料理店やバーでアルバイトをしながら学校に通っていました。それでも首が回らなくなり「もう卒業を諦めて帰国するしかないな……」と考えていたとき、師事していた先生、友人をはじめ多くの方々に応援し助けてくださいました。9年間の留学の最後に、一時帰国して東京交響楽団のオーディションを受けることができたのも、周りの人の支えと、学校の奨学金が思っていたより多めにいただけたおかげ。人間は一人では生きていけず、沢山の支えがあって生活ができていることを、身をもって実感しています。日々感謝しかありません。

東響でもうすぐ10年

中学、高校では吹奏楽部、オーケストラの経験はパリで積んだので、首席奏者として日本のオーケストラの舞台に立ったのは東京交響楽団が初めてでした。とにかくリハーサルがとても静かで「誰もおしゃべりしていない!」と驚いたのを覚えています。パリではリハーサル中もガヤガヤしていたので(笑)。他にも、リハーサル中に「そこ、チータで!」と言われて「チータって何!?!」と周りに聞いたことも。“スタンドプレイ(立って演奏)”のことなのですが、当時はまだ日本での経験が浅くて、わからないことも多かったですね。

東響での生活ももうすぐ10年。とても忙しい日々は、あっという間のようにありながら「もう20年くらい経ったのでは!」と思うほどの充実した日々を過ごせていることに感謝です。



学生時代、パリで開催した3.11のチャリティコンサート。パリ在住の日本人だけでなく、フランス人学生はじめプロの演奏家の方々も一緒に演奏してくださいました。

インタビュー:事務局